

## 2. 研究の詳細

プロジェクト名	これからの保健体育教師に求められる授業実践力に関する定性的研究 ーエキスパート・ティーチャーにおける検討ー		
プロジェクト期間	平成24年度～平成25年度		
申請代表者 (所属講座等)	兄井 彰 (保健体育講座)	申請代表者 (所属講座等)	兄井 彰 (保健体育講座)

### ① 研究の目的

本研究は、平成24年度から引き続き、体育教師の職能について明らかにするため、エキスパート・ティーチャーと呼ばれる中学校保健体育教師に対して、インタビュー調査を行い、優れた体育教師が、どのような考えや手立てにより、体育の授業実践に取り組んでいるかについて、定性的に理解することを目的とした。

### ② 研究の内容

これまで体育教師の職能については、数多くの提言がなされているが、これらは、体育教師はこうあるべきとする規範的・経験的な提言が数多い。それに対して松田(2010a; 2010b)は、多くの中学校の保健体育教師に対する調査を行い、保健体育教師は、「授業構想力」「人間関係力」「運動指導力」「情報活用力」「生徒管理能力」を職能として意識していることを明らかにしている。しかし、この実証的研究においても、一般的に多くの教師が考えている体育教師の職能に対して明らかにしているだけで、優れた実践を行う体育教師に求められる職能については言及されていない。これまで、優れた実践を行うために必要な職能を有しているエキスパート・ティーチャーと呼ばれる優れた体育教師が、教師として必要な職能をどのように考え、それをどのように身に付けてきたかについては検討されてこなかった。そこで、本研究では、このエキスパート・ティーチャーと呼ばれる優れた実践を行っている体育教師が職能をどのように考えているかを明らかにし、体育教師の職能構造を検討することにより、職能成長とキャリア形成のための具体的な指針を示すことが研究内容であった。

### ③ 研究の方法・進め方

#### 1. エキスパート・ティーチャーの選定

エキスパート・ティーチャーとしての対象者を選定するにあたり、体育の授業実践に優れているとの客観的評価を得ているといった選定基準を設けた。表1に対象者の特性及び選定基準について示す。

表1. エキスパート・ティーチャーの特性及び選定基準

対象	中学校保健体育科教諭15名(男性教諭13名, 女性2名)
平均年齢	46.67(±3.02)才
平均指導歴	24.27(±2.99)年
選定基準	○大学の附属中学校教諭や体育研究所長期派遣研修員, 主幹教諭, 指導主事などの経験を有している。 ○体育に関する著書, 研究論文, 紀要, 報告書などの執筆に携わった経験を有している。 ○優れた体育教師であるとの客観的評価を得ている(例 マイスター認定教員)。

#### 2. データ収集

対象者の基本的情報を収集する質問紙調査と、体育、体育授業実践、体育教師に求められる職能の捉え方、対象者の職能形成要因などに関する専門的情報を収集するインタビュー調査を実施した。

##### 1) 質問紙調査

質問紙は、事前に対象者に郵送し、対象者の年齢、専門実技、教職歴、これまで行った研究授業や公開授業のテーマ、執筆した著書、論文、紀要、報告書などの基本的情報について回答を求めた。

## 2) インタビュー調査

研究におけるインタビューは、半構造的インタビューを採用した。半構造的インタビューでは、インタビューガイドとして予め質問する項目がリストアップされる。しかし、実際のインタビューでは対象者との会話の流れが重視され、インタビューガイドに囚われることはない (Guba & Lincoln, 1981; Bloom & Salmela, 2000)。このようなインタビュー法では、対象者が柔軟に自分たちの考えを語ることができ、対象者の見方・考え方などについての深層的な理解を得ることが可能になるという利点がある (Patton, 1990; Robson, 2002)。本研究は、エキスパート・ティーチャーへのインタビューを通して、対象者の体育、体育授業実践、体育教師に求められる職能の捉え方、各対象者の職能形成要因などについて深層的、包括的に分析、解釈しようとするものである。このようなねらいを果たす上では、半構造的インタビューが最も適した方法であると判断した。

対象者に、それぞれ約1時間から1時間半のインタビューに参加してもらい、まず事前の質問紙から得られた基本的情報に関する確認を行った。その後、専門的情報や対象者が執筆した論文や資料の背景、意図、内容に関することについて質問し、会話を通して自分たちの考えや思いについて語ってもらった。

### ④ 実施体制

以下の役割を相互に分担して研究を進めた。

	対象者の選定	インタビューの実施	テキスト化	定性的分析
研究代表者(兄井)		○		○
研究分担者(本多)		○		○
研究協力者(教育委員会関係)	○			
大学院生			○	
担当:○				

### ⑤ 平成25年度実施による研究成果

「体育教師の職能」のサブカテゴリーは、中学校体育教師に求められる資質及び専門的力量として、「情熱・向上心」「運動や運動の楽しさに関する知識・理解」「授業設計力」「集団の統率力」「実技力・示範力」「観察力」「動きのイメージの伝達力」「コミュニケーション能力」から成るタグで構成された。尚、インタビューデータから抽出された総ユニット数500のうち、「体育教師の職能」に関するユニットは48ユニット(9.6%)であった。

この分析の結果、優れた中学校体育教師が捉える職能は、「情熱・向上心」「運動や運動の楽しさに関する知識・理解」「授業設計力」「集団の統率力」「実技力・示範力」「観察力」「動きのイメージの伝達力」「コミュニケーション能力」に分類された。

それぞれの優れた中学校体育教師が捉える職能について、「情熱・向上心」「運動や運動の楽しさに関する知識・理解」は、授業設計・実践を行う上での下地であり、「集団の統率力」は体育教師としての「基本的実技力」であると捉えられていた。「実技力・示範力」は、あらゆる領域や種目を授業レベルで実践できる「専門的実技力」であるという考えと、動きや動きのポイントを伝える上での下地となるという考えの2つが示された。特に、専門的実技力は、教師歴の少ない教員に必要な力であるとの捉え方も示された。「観察力」「動きのイメージの伝達力」は、体育授業実践の「中核」として捉えられていた。「コミュニケーション能力」においては、他の資質や能力をよりよく発揮していくための「潤滑油」と捉えられていた。

対象者がそれぞれの資質や能力の必要性、あるいはそれらの関連性について認識するに至った要因については、一つには、自分のそれまでのやり方が通用しない「出来事」が契機となっていることが挙げられた。これについて、授業における学習者とのやり取りや授業実践の結果に対して納得のいかない思いの重なりといった過程があることが挙げられた。さらにもう一つには、自分たちが年齢を重ねるにつれて備えていた能力を発揮

するのが難しくなってきた、あるいは発揮できなくなってきたとの認識の過程についても挙げられた。

#### ⑥ 今後の予想される成果（学問的効果、社会的効果及び改善点・改善効果）

本プロジェクトを実施することによって、主として以下に示す成果・効果を期待できる。

- ・ エキスパート・ティーチャーと言われる高い職能を備えた中学校保健体育教師が現場においてどのような考えのもと、具体的にどのような実践的工夫による内容の授業を展開しているのか、それはまたどのような過程を経て構築されてきたものであるのか、について明らかにできる。
- ・ これまでの研究により成果としてられた「本学保健体育教員養成カリキュラムデザインの方向性」、「講義・演習における体育授業の内容論的あり方に関する教授資料」に加え、「体育授業の方法論的視点による講義・演習のあり方に関する教授資料」を得ることができる。
- ・ 現場という現実を考慮した上での具体的・実践的知見及び資料に基づいた講義や演習を行うことで、保健体育教師をめざす学生の授業実践力を高めることに寄与できる。

#### ⑦ 研究の今後の展望

本研究では、中学校体育のエキスパート・ティーチャーが捉える職能について明らかにすることができた。今後は、体育を教える教師として、小学校及び高等学校の教師を対象とし、彼らが職能をどのように捉えているかについて、明らかにすることで、校種間の違いを検討することが必要だと考えられる。また、このような体育を教える教師の職能について、将来教員を目指している教員養成課程の学生がどの程度備えているかについても解明できれば、学生がそうした職能やキャリア・デザイン力を身につけて行くためには、どのようなカリキュラムを考えて行かなければならないかという教員養成にとって根本的な課題に寄与でと思われる。

#### ⑧ 主な学会発表及び論文等

##### 学会発表

本多壮太郎・兄井 彰（2012. 8）エキスパート・ティーチャーが備える職能に関する定性的分析，日本体育学会第 63 回大会（於：東海大学・湘南キャンパス）

本多壮太郎・兄井 彰（2013. 8）エキスパート・ティーチャーの職能構造に関する定性的分析，日本体育学会第 64 回大会（於：立命館大学）

##### 論文

兄井 彰・本多壮太郎（2013）中学校体育におけるエキスパート・ティーチャーの職能構造に関する定性的研究（1），福岡教育大学紀要，62(5)，75-84.

本多壮太郎・兄井 彰（2013）中学校体育におけるエキスパート・ティーチャーの職能構造に関する定性的研究（2），福岡教育大学紀要，62(5)，151-162.

本多壮太郎・兄井 彰（2014）中学校のエキスパート・ティーチャーが捉える体育教師の職能に関する定性的研究．福岡教育大学紀要，63(5)，139-149.

○本報告書は、本学ホームページを通じて学内外に公開いたします。

○本経費により作成された成果物や資料等については、必ず全て添付願います。